

環境県民局 資 料	No. 2
--------------	-------

令和3年11月19日 課 名 環境県民局わたらしい生き方応援課 担当者 課長 八百野 内 線 2733
--

令和3年度上半期のエソール広島の活動状況の検証について

1 要旨・目的

エソール広島の令和3年度上半期の活動状況について取りまとめを行い、その内容について検証する。

2 現状・背景

エソール広島の平成30年10月の移転を機に、エソール広島の更なる活性化のため、毎年度の上半期及び年間の施設の利用状況や事業の実施状況等を取りまとめ、検証することとした。

3 概要

(1) 対象者

県民

(2) 事業内容（実施内容）

別紙のとおり

(3) スケジュール（実施期間）

令和3年4月～9月

(4) 予算（国庫・単県）

—

(5) 事業効果・検証結果

別紙のとおり

令和3年度上半期のエソール広島の活動状況の検証について

〔令和3年11月19日〕
わたらしい生き方応援課

エソール広島の令和3年度上半期の活動状況について取りまとめを行い、その内容について検証する。

1 エソール広島の利用状況

(1) 利用者数

新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用定員を通常の50%としたほか、約4か月の利用自粛要請期間は新規の利用申込みを受付しないなどの対策を講じたため利用者数は昨年同様低調であるが、オンラインによる講座を積極的に推進したため、昨年度上半期に比べてオンライン参加者は倍増したほか、利用者全体でも増加し6,832人となった。

区分		令和3年度 4～9月実績A (割合)	令和2年度 実績B		平成28 年度	対前年 同期比 A/B
			(割合)	4～9月		
利用者数		6,832人 (100.0%)	13,963人 (100.0%)	5,548人	10,563人	124.5%
内 訳	研修室・交流スペース利用	5,934人 (86.9%)	11,310人 (81.0%)	4,251人	—	141.4%
	図書の貸出しや情報収集等 での利用(フリースペース利用)	898人 (13.1%)	2,653人 (19.0%)	1,297人	—	69.2%
(参考)外部施設で開催した財団主催又は共催の講座等の参加者数		298人	1,579人	481人	—	62.0%

※利用自粛要請を行った期間：令和2年4～9月：R2.4.1～5.17(47日間)

令和3年4～9月：R3.5.8～7.11, R3.7.31～9.30(127日間)

※ 研修室・交流スペース利用者数には、オンライン参加を含む。

(令和2年4～9月：1,521人, 令和3年4～9月：3,264人)

(2) 研修室及び交流スペースの稼働率

① 全体の稼働率

研修目的等での稼働率は、61.1%で昨年度上半期を4ポイント上回った。また、自粛要請期間を除いても78.6%で6ポイント上回っている。

区分	開館日数 A	研修目的等での利用日数 B	稼働率 B/A
令和3年度(4～9月)	180日 (56日)	110日 (44日)	61.1% (78.6%)
令和2年度(4～9月)	182日 (135日)	104日 (98日)	57.1% (72.6%)

※ ()内は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用自粛要請を行った期間を除く。

(令和2年4～9月：R2.4.1～5.17, 令和3年4～9月：R3.5.8～7.11及びR3.7.31～9.30)

② 研修室、交流スペース別の稼働率

「研修室（2室の平均）」の稼働率は32.7%で、昨年度上半期に比べて9.7ポイント上回った。これは利用自粛要請期間以外に研修や会議の開催が、積極的に行われたためと考えられる。

「研修室」は、昼間では平日より土日の利用が多く稼働率は67.9%となったが、夜間の外出削減要請などの影響から夜間の稼働率は低く、土日の利用はなかった。

利用人数単位の稼働率は、「研修室」では22.6%で昨年度上半期に比べて7ポイント上回り、「交流スペース」は15.4%で昨年度上半期に比べて4.1ポイント上回った。

これは、昨年度上半期に比べて、オンラインでの開催が進み、利用者数が多くても行える行事が増えたことが要因と考えられる。

【研修室単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	前年同期
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	36.9%	40.5%	38.7%	64.3%	71.4%	67.9%	8.3%	0.0%	32.7%	23.0%
交流S	7.1%	9.5%	8.3%	21.4%	14.3%	17.9%	9.5%	0.0%	9.5%	7.4%

※ 利用自粛要請を行った期間（127日間）を除く（次の表において同じ）

【利用人数単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	前年同期
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	26.4%	30.3%	28.4%	45.2%	48.6%	46.9%	2.4%	0.0%	22.6%	15.6%
交流S	24.3%	24.3%	24.3%	12.9%	10.0%	11.4%	5.5%	0.0%	15.4%	11.3%

※ 利用人数単位の稼働率の算定に当たっては、利用実態を考慮して研修室1室当り30人、交流スペース1室当たり10人を標準値として算定している。

(3) 研修室及び交流スペースの利用状況の分析

① 団体区分別・利用形態別の利用人数

団体区分別でみると、行政が 2,027 人 (34.2%) で最も多く、そのうち利用形態別では、講座・研修での利用が 22.1% と多い。次いで、企業・NPO 等が 33.9%、女性団体が 26.8% となっている。

女性団体や行政、企業・NPO 等では、オンラインによる参加利用を積極的に推進したこともあり、利用者数は昨年度上半期を大きく上回った。また、男女共同参画財団（主催事業）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用自粛が長期に及んだことから、集合型の講座等を下半期に延期したため減少した。

区 分	令和3年度 (4~9月) 〔団体別割合〕 (利用形態割合)	(利用形態)			令和2年度 (4~9月)	対前年 同期比
		講座・研修	交流会	会議・打合せ		
女性団体	1,589人 〔26.8%〕 (100.0%)	1,202人 (20.3%)	47人 (0.8%)	340人 (5.7%)	902人	176.2%
企業・NPO等	2,013人 〔33.9%〕 (100.0%)	1,376人 (23.2%)	144人 (2.4%)	493人 (8.3%)	1,814人	111.0%
行政	2,027人 〔34.2%〕 (100.0%)	1,311人 (22.1%)	0人 (0.0%)	716人 (12.1%)	958人	211.9%
男女共同参画 財団（主催事業）	305人 〔5.1%〕 (100.0%)	238人 (4.0%)	0人 (0.0%)	67人 (1.1%)	557人	54.8%
合 計	5,934人 〔100.0%〕 (100.0%)	4,127人 (69.6%)	191人 (3.2%)	1,616人 (27.2%)	4,251人	139.6%

② 利用回数区分別の利用状況

3回以上利用している団体は 14 団体で全体の 26.9% を占め、これを利用人数で見ると 2,085 人で、利用者総数 (5,934 人) の 35.1% となっている。

また、利用実態としては、起業支援や子育て支援、就業支援などの連続講座の開催や会議などで利用している団体がみられる。

(単位：団体)

区 分	令和3年度 (4~9月)	(団体区分)			令和2年度 (4~9月)
		女性団体	企業・NPO等	行政	
10回以上	0	0	0	0	2
5~9回	6	4	1	1	12
3~4回	8	2	4	2	7
3回以上計	14	6	5	3	21
全利用団体数	52	17	24	11	65
3回以上の比率	26.9%	35.3%	20.8%	27.3%	32.3%

区 分	令和3年度 4~9月	(利用形態)			令和2年度 4~9月	対前年 同期比
		講座・研修	交流会	会議・打合せ		
3回以上利用して いる団体の利用人数	2,085人	1,049人	87人	955人	2,799人	74.5%

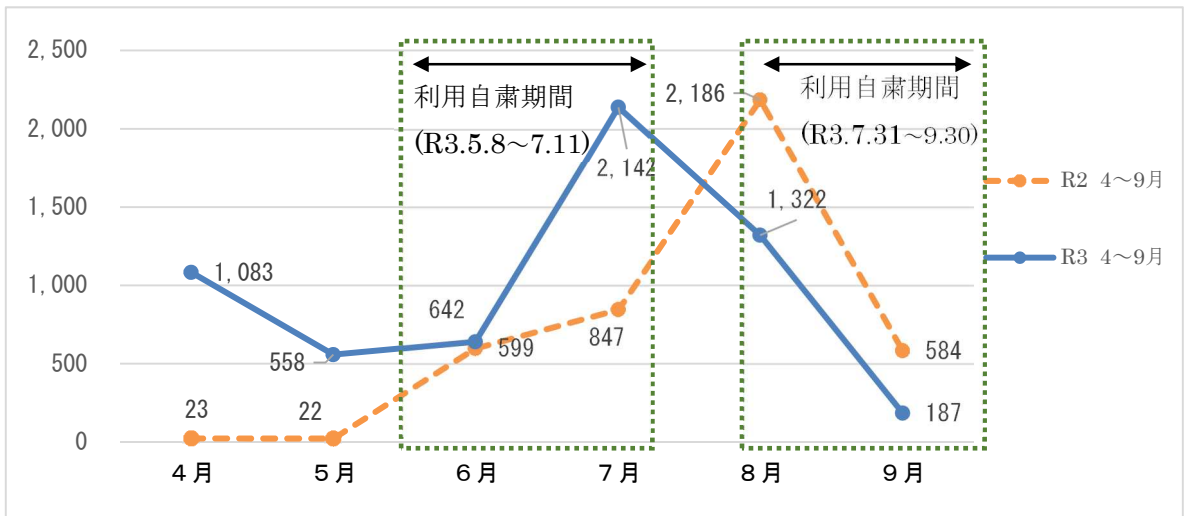
③ 月別の利用状況

昨年度は4月～5月にかけて緊急事態宣言に伴う利用自粛要請を行った影響で利用者が大幅に落ち込んだが、今年度はオンラインによる講座等の開催が増加したため、昨年度同期ほどの落ち込みはなかった。

今年度上半期も利用定員を通常の50%としたため、新型コロナウイルス発生前と比べ利用者数は低調ではあるが、4月～7月は昨年度を上回る利用があった。特に、7月は、利用自粛要請を行わなかった期間の利用が増えたことで、利用者数が2,000人を超える結果となった。

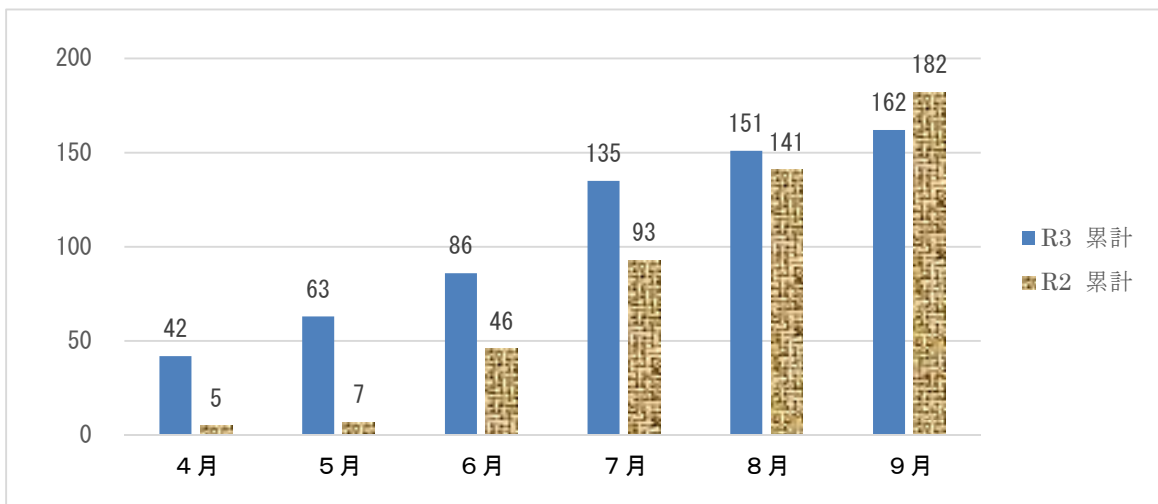
○利用者数

(単位：人)



○利用件数 (累計)

(単位：件)



④ 平日・土日別の利用状況

利用人数の最も多い時間帯は、平日・昼間の3,787人(63.8%)で、次いで土日・昼間の1,693人(28.5%)だった。

利用形態別では、平日・土日とも「講座・研修」が多く、次いで「会議・打合せ」が多い。

団体区分別は、平日は「行政」の利用が最も多く、次いで「企業・NPO等」の利用が多い。土日は「女性団体」の利用が多く、次いで「企業・NPO等」の利用が多いが、その差が818人であることから大半を「女性団体」が利用していることがわかる。

夜間については、令和元年度から開館時間を9:30～21:00に拡大したが、夜間の外出削減要請により利用時間を20時までとしたため、夜間の利用が減少し、土日の夜間利用はなかった。

※ 開館時間9:30～18:00を令和元年度から9:30～21:00へ拡大

【利用形態別の利用人数】

区分		令和3年度 (4～9月) (割合)				令和2年度 (4～9月)	対前年 同期比
		(利用形態)					
		講座・研修	交流会	会議・打合せ			
平日	昼間	3,787人 (63.8%)	2,421人 (40.8%)	85人 (1.4%)	1,281人 (21.6%)	2,631人	143.9%
	夜間	454人 (7.7%)	350人 (5.9%)	35人 (0.6%)	69人 (1.2%)	537人	84.5%
土日	昼間	1,693人 (28.5%)	1,356人 (22.9%)	71人 (1.2%)	266人 (4.5%)	971人	174.4%
	夜間	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	112人	皆減
合計		5,934人 (100.0%)	4,127人 (69.6%)	191人 (3.2%)	1,616人 (27.2%)	4,251人	139.6%

【団体区分別の利用人数】

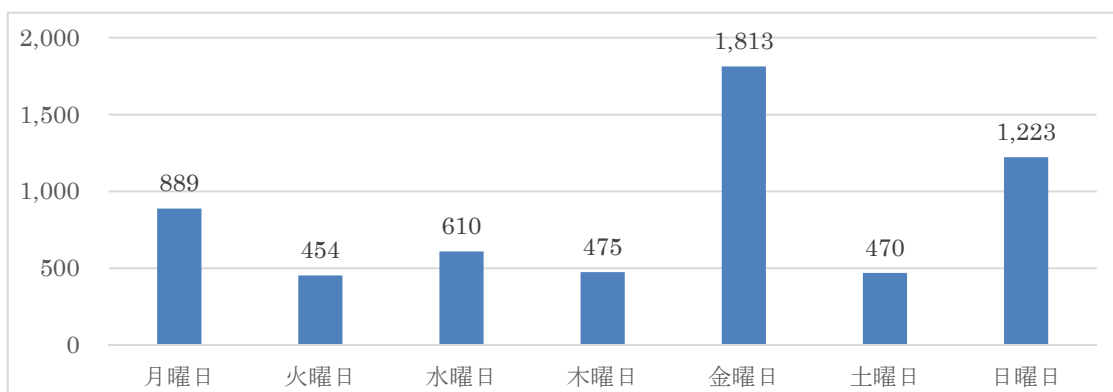
区分		令和3年度 (4～9月) (割合)					令和2年度 (4～9月)	対前年 同期比
		(団体区分)						
		女性団体	企業・NPO等	行政	男女共同参画 財団(主催事業)			
平日	昼間	3,787人 (63.8%)	436人 (7.3%)	1,580人 (26.6%)	1,704人 (28.7%)	67人 (1.1%)	2,631人	143.9%
	夜間	454人 (7.7%)	18人 (0.3%)	116人 (2.0%)	320人 (5.4%)	0人 (0.0%)	537人	84.5%
土日	昼間	1,693人 (28.5%)	1,135人 (19.1%)	317人 (5.3%)	3人 (0.1%)	238人 (4.0%)	971人	174.4%
	夜間	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	112人	皆減
合計		5,934人 (100.0%)	1,589人 (26.8%)	2,013人 (33.9%)	2,027人 (34.2%)	305人 (5.1%)	4,251人	139.6%

※割合の合計は端数処理により合わない場合がある。

⑤ 曜日別の利用状況

金・日曜日は、利用者数が1,000人を上回った。

(単位：人)



(4) 登録団体の利用状況

利用促進の広報に力を入れたため、男女共同参画の推進を目的としてエソール広島を利用して活動する団体として、令和3年度上半期に新たに6団体が登録し、令和3年9月末現在で58団体となった。

① 登録団体の状況

区分	団体数	(新規)
公益社団・財団法人	3 団体	(0 団体)
一般社団・財団法人	9 団体	(1 団体)
NPO法人	7 団体	(0 団体)
その他任意団体等	39 団体	(5 団体)
計	58 団体	(6 団体)

② 所在市町別の状況

区分	団体数	(新規)
広島市	52 団体	(6 団体)
広島市以外*	6 団体	(0 団体)
計	58 団体	(6 団体)

*竹原市，府中市，東広島市，廿日市市，府中町，坂町（各1団体）

③ 登録団体の利用状況

区分	件数
職場等における女性活躍の支援 ・キャリアアップ支援 等	58 件
家庭における男女共同参画の促進 ・子育て支援 等	1 件
地域社会活動における男女共同参画の促進 ・地域における女性活動の支援 等	9 件
その他 ・ひとり親支援，健康支援 等	8 件
計	76 件

(5) 上半期の振り返り

新型コロナウイルス感染拡大防止のための県の対処方針に沿った利用自粛要請の期間は、昨年度上半期は約1カ月半であったところ、今年度上半期は約4カ月に及んだことや、利用定員の50%削減などを行ったことから、利用者数の大幅な伸びはないものの、昨年度同期に比べオンライン参加者が倍増したことで、利用者数の増加がみられた。

これは、コロナ禍においてICTを活用した主催事業を積極的に推進するため、講座等にオンライン配信や対面とのハイブリッド型を取り入れたほか、オンライン利用が可能であることを広報したことで利用団体にもWEBの活用が一層広がったこと等による。

(6) 下半期に向けての取組

今年度下半期においても、新型コロナウイルス感染防止の対策を徹底した上で、立地環境の優位性を活かしながら、次の取組によって更なる利用拡大を図り、男女共同参画の拠点性を高めていく。

- ① リモートワークやウェビナー（インターネット上で行われるセミナー）等の広がりを受け、市町等と連携して講座等を市町等の施設でもオンライン受講できる機会づくりなど、ICT活用を図るとともに、連携や交流に繋げるための仕掛けなどにより利用を拡大する。
- ② 下半期に延期した集合型講座等を着実に実施するとともに、夜間の利用については、大学生や働く方など様々な立場の方が集まる交流会や勉強会等の利用を拡大していくよう利用促進活動を行う。
- ③ 財団と連携して取組を行っていく登録団体数を100団体とすることを目標に、未登録の団体へ積極的に働きかけを行っていくとともに、そういった団体を通じて、利用の周知を図り、利用拡大につなげていく。

2 男女共同参画に関する事業の実施状況

エソール広島は、男女がその個性と能力を十分に発揮し、職場や地域、家庭などの社会のあらゆる分野において共に参画していくために必要な事業を展開し、男女共同参画に関する研修・交流事業の企画実施や、相談事業、情報の収集及び提供等を実施している。

これまでエソール広島の利用が少なかった大学生や20歳代の若い社会人を対象に、性別にかかわらず自分らしい生き方を選択するためのワークショップを、県と協力して、コロナ禍において社会人でも参加しやすいよう、平日の夜間にオンライン形式で開催した。

加えて、コロナ禍が心と生活にどのような影響を及ぼしているのか、昨年度からの変化を把握するため、4～5月に「新型コロナウイルス禍が及ぼす影響について」アンケートの継続調査をWEBで実施し、昨年度の回答者156人に対し、今年度は540人からの回答を得た。その結果、コロナ禍でこれまでにない閉塞感を感じる方が多い状況や相談事業の内容から浮かび上がってきた課題などから、「コロナ禍と女性の自死」と題した公開講座を実施したほか、県との連携により生理用品の配布などを行った。

さらに、今年度においても相談事業で増加傾向にあるLGBTをテーマに、公開講座や保有する図書を有効活用し来館者に学んでもらえるビブリオバトル（読書会・勉強会）を昨年度に引き続いて開催した。

(1) 研修・交流事業の企画実施

① 職場等における女性活躍の支援

- ・働く女性のうち、創業を検討する方や創業間もない方を対象に、オンラインを利用したセミナー

区 分	事業数（回数）		参加者数（人）		
	令和3年度 （4～9月）	令和2年度 （4～9月）	令和3年度 （4～9月）	令和2年度 （4～9月）	対前年 同期比
財団主催事業	-	6	-	190	-
（うち企業等からの受託）	(-)	(1)	(-)	(43)	(-)
共催事業	3	-	225	-	-
計	3	6	225	190	118.4%

※ 個別の事業の詳細については別紙、参考のとおり（以下、②～④において同じ。）。

② 家庭における男女共同参画の促進

- ・子育て中の女性の心と身体を支援するための講座とワークショップ

区 分	事業数（回数）		参加者数（人）		
	令和3年度 （4～9月）	令和2年度 （4～9月）	令和3年度 （4～9月）	令和2年度 （4～9月）	対前年 同期比
財団主催事業	-	1	-	41	-
（うち企業等からの受託）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
共催事業	8	14	94	275	34.2%
計	8	15	94	316	29.7%

③ 様々な困難や生きづらさの解消と安心づくりのための支援

- ・複雑多様化する相談に対応するため、男女共同参画の視点を持つ相談員を育成するための研修
- ・女性に対する暴力や性的マイノリティの方々への理解を深め、困難や生きづらさを抱えている方々の解消につながるような講座や共催事業

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和3年度 (4~9月)	令和2年度 (4~9月)	令和3年度 (4~9月)	令和2年度 (4~9月)	対前年 同期比
財団主催事業	8	7	433	280	154.6%
(うち企業等からの受託)	(4)	(3)	(264)	(170)	(155.3%)
共催事業	3	-	72	-	-
計	11	7	505	280	180.4%

④ その他

- ・若年層が、広島で活躍する専門家から学び、自分らしいキャリア形成のヒントや選択肢を考えるためのセミナー
- ・エソール広島の情報スペースの書籍を利用した読書会・勉強会

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和3年度 (4~9月)	令和2年度 (4~9月)	令和3年度 (4~9月)	令和2年度 (4~9月)	対前年 同期比
財団主催事業	3	5	186	173	107.5%
(うち企業等からの受託)	(1)	(-)	(61)	(-)	(-)
共催事業	3	-	140	-	-
計	6	5	326	173	188.4%

⑤ 上半期の振り返り

新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用自粛が長期に及んだことから、集合型で開催を予定していた講座や受託事業の一部を下半期に延期したことや、例年開催しているメンタルサポーター養成講座といった連続講座は下半期から開催することとした。一方、集中対策期間以外は事業を集中的に実施したほか、オンラインによる講座開催を積極的に取り入れた。

今年度、新たに開催した、性別にかかわらず自分らしい生き方を選択するためのワークショップもオンラインで開催し、定員20名のところ26名の参加が得られ、性別に関する思い込みや日頃の違和感について活発な意見交換が行われ、参加者アンケートの結果からも高い満足度が得られた(参加してよかった:87.5%)。

このほか、コロナ禍における課題や近年相談が増えているLGBTに関する講座を開催しており、財団が主催する研修事業や交流事業の参加者アンケート結果の満足度は80%を超えるなど高い評価を得ている。

⑥ 下半期に向けての取組

引き続き、アンケート調査結果や相談事業の分析等によって、ニーズに合致したテーマの選定や、社会情勢の変化を踏まえた講座や啓発などを実施するとともに、WEBを活用した公開講座等により参加者を拡大させる。

新たに実施したワークショップ事業については、参加した若い世代と社会や地域、家庭等で性別に関わりなく活躍されている方との意見交換を行う交流を通じて、課題について深掘りし、課題解決策をブラッシュアップさせ、参加者による自主的な活動に繋げていく。

また、下半期に延期した講座や受託事業については、着実に実施することで全体事業量を確保しつつ、受託事業については、幅広い団体等からの活用や参加を促進し、利用団体等とのネットワークを広げていく。

(2) 相談事業

① 一般相談

家族や職場における人間関係などに関する悩みに対して、電話相談は週5日（水曜日、日曜日、祝日、年末年始を除く日）実施し、その中でも複雑な悩みを抱えた案件などについては、面接相談（原則として毎週金曜日）に移行している。

電話相談と面接相談を合わせると、今年度上半期で1,082件の相談が寄せられ、昨年度の年間件数2,073件の水準を上回る傾向で推移している。

○相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	前年同期比
令和3年度 (4～9月)	1,032件	50件	1,082件	107.7%
令和2年度 (4～9月)	940件	65件	1,005件	-

○相談内容

相談内容	令和3年度 (4～9月)	令和2年度 (4～9月)	前年 同期比
家族（夫婦、子ども、親等）に関すること (離婚、夫婦間のDV、子どもの教育、親の世話など)	367件 (33.9%)	442件 (44.0%)	83.0%
男女間や職場の人間関係など対人に関すること (男女・隣人・友人・職場等対人関係におけるトラブルなど)	280件 (25.9%)	167件 (16.6%)	167.7%
健康、孤独などの人生における不安や悩みに関すること (病気を抱える辛さや不安、今後の生き方など)	385件 (35.6%)	298件 (29.7%)	129.2%
その他 (法律や福祉など様々な情報の収集など)	50件 (4.6%)	98件 (9.7%)	51.0%
計	1,082件 (100.0%)	1,005件 (100.0%)	107.7%

○相談者の年代

区分	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不明	計
令和3年度 (4～9月)	64件 (5.9%)	118件 (10.9%)	198件 (18.3%)	295件 (27.3%)	261件 (24.1%)	129件 (11.9%)	17件 (1.6%)	1,082件 (100.0%)
令和2年度 (4～9月)	39件 (3.9%)	110件 (10.9%)	271件 (27.0%)	202件 (20.1%)	256件 (25.5%)	102件 (10.1%)	25件 (2.5%)	1,005件 (100.0%)

○相談者の地域別件数（電話）

地域	相談件数	内訳
広島市	656件 (63.5%)	
広島市以外	303件 (29.4%)	呉市 8, 三原市 4, 尾道市 16, 福山市 23, 東広島市 34, 廿日市市 18, 安芸高田市 2, 江田島市 1, 大竹市 1, 庄原市 1, 府中市 1, 三次市 2, 府中町 1, 海田町 3, 坂町 2, 北広島町 1, 不明 185
県外・不明	73件 (7.1%)	
計	1,032件 (100.0%)	

○相談者の地域別件数（面接）

地域	相談件数	内訳
広島市	36件 (72.0%)	
広島市以外	13件 (26.0%)	三次市 2, 大竹市 1, 廿日市市 4, 尾道市 1, 東広島市 3, 府中町 1, 坂町 1
県外	1件 (2.0%)	
計	50件 (100.0%)	

ア DVに関する相談（一般相談の内数）

今年度上半期のDVに関連した相談は156件で、昨年度上半期の195件に対し20%の減となっている。

○ 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年同期比
令和3年度(4～9月)	132件	24件	156件	80.0%
うち夫婦間のDV	55件	20件	75件(48.1%)	—
令和2年度(4～9月)	162件	33件	195件	—

○ 年代別件数

区分	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
女	9件	21件	33件	28件	52件	4件	1件	148件
男	1件	1件	3件	2件	—	—	1件	8件
計	10件 (6.4%)	22件 (14.1%)	36件 (23.1%)	30件 (19.2%)	52件 (33.3%)	4件 (2.6%)	2件 (1.3%)	156件 (100.0%)

○ 地域別件数

区分	件数		内訳
広島市	111件	(71.2%)	
広島市以外	44件	(28.2%)	三次市1, 尾道市1, 東広島市8, 福山市3, 呉市1, 廿日市市3, 北広島町1, 海田町1, 不明25
県外・不明	1件	(0.6%)	
計	156件	(100.0%)	

イ 専門機関との連携

喫緊に対応する必要がある深刻な内容の相談については、事案に応じて、警察や病院などの専門機関につないでいる。

専門機関	令和3年度 (4～9月)	令和2年度 (4～9月)	主な事例
警察	4件	4件	ストーカーやDV被害
病院	9件	9件	ストレス等による心身の不調
行政機関（こども家庭センター等）	20件	25件	DV, 性被害
弁護士, 家庭裁判所等	18件	27件	離婚, 相続
民間施設	9件	13件	法律に基づく事務手続き
計	60件	78件	

② L G B T相談

L G B T相談は平成 29 年 10 月から開設しており、開設当初は月 1 回の実施であったが、平成 30 年 6 月からは毎週土曜日を相談日として窓口を開いている。

相談件数は昨年度同時期と比べて概ね横ばいで、年代別では 30 歳代までの若い世代からの相談が全体の 68.7%を占め、昨年度上半期より 3.2 ポイント増加している。

○ 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年比
令和 3 年度(4~9 月)	115 件	-	115 件	101.8%
令和 2 年度(4~9 月)	113 件	-	113 件	-

○ 相談者の年代

区分	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代 以上	不明	計
令和 3 年度 (4~9 月)	9 件 (7.8%)	29 件 (25.2%)	41 件 (35.7%)	6 件 (5.2%)	2 件 (1.7%)	26 件 (22.6%)	2 件 (1.7%)	115 件 (100.0%)
令和 2 年度 (4~9 月)	9 件 (8.0%)	30 件 (26.5%)	35 件 (31.0%)	4 件 (3.5%)	2 件 (1.8%)	31 件 (27.4%)	2 件 (1.8%)	113 件 (100.0%)

※割合の合計は端数処理により合わない場合がある。

○ 相談者の地域別件数

地域	相談件数		内訳
広島市	33 件	(28.7%)	
広島市以外	31 件	(27.0%)	尾道市 16, 廿日市市 8, 東広島市 1, 不明 6
県外・不明	51 件	(44.3%)	
計	115 件	(100.0%)	

ア 専門機関との連携

専門機関による支援が必要な内容の相談については、病院や行政機関につないでいる。

専門機関	令和 3 年度 (4~9 月)	令和 2 年度 (4~9 月)	主な事例
病院	5 件	3 件	性転換に関する悩み
民間支援団体	5 件	8 件	自分の性が分からない
計	10 件	11 件	

③ 上半期の振り返り

令和3年度上半期の一般相談（電話・面接）は1,082件で、昨年度同期（1,005件）より7.7ポイント増加している。相談内容のうちDVを含む家族に関する相談は減少傾向にあるが、一方で人間関係、健康や孤独などの相談は増加し、年代別では、20歳代以下で昨年度の39件から今年度は64件に増加している。

LGBT相談は、30代以下の方の比率が約7割となっており、若い世代へのニーズの高さが読み取れる。

また、専門機関との連携件数は全体的には減少しているが、行政や病院、法律関係など様々な専門機関に繋いでおり、引き続き、相談内容に応じて適切な専門機関へ繋ぐ重要な役割を担っていることから、相談内容の的確な把握・分析と併せて、専門機関との連携強化が必要である。

コロナの影響に関する調査を、昨年度に引き続き実施したところ回答者の約8割が心身に何らかの影響があったと答えていたことなどから「コロナ禍と女性の自死」と題した公開講座を実施したほか、生理用品の購入に困っている方へ生理用品の配布を行っている。

④ 下半期に向けての取組

相談事業は、現在の社会状況を背景として、様々な困難を抱える方の直接の声が届くことから、適切な専門機関へ繋ぐとともに、関係機関等と連携しながら、現在エソール広島が実施している男女共同参画に関する講座やLGBT研修などの事業に反映させていく。

また、コロナの影響に係る調査結果や相談内容、社会情勢の変化等を踏まえニーズに沿った取組を行うとともに、不調や悩みを受け止める様々な相談窓口の支援者のスキルアップのための事業を実施していく。

これらの取組と併せ、どこに相談すればよいか分からないといった方々の最初の公的な相談窓口として広く認知されるよう、ホームページやSNS等の活用とともに、市町や関係団体と連携した研修会などの場を活用して、エソール広島の相談窓口の周知拡大を図っていく。

（3）情報の収集及び提供

① ホームページ等の活用や文献情報などによる情報発信・提供

相談が増加するとともに研修受託事業で関心の高まっているLGBTをテーマに、来館者に理解を深めてもらうため、情報スペースの図書を有効活用したビブリオバトル（読書会・勉強会）を昨年度に引き続き開催した。

また、コロナ禍で様々な状況下で困難を抱えた方々の一助となるよう、DV相談、生活困窮に係る相談、子育てや教育に係る相談など、国をはじめとした行政機関が設置した相談窓口や生活上の困りごとに対応する各種情報などについて、県民が一元的に情報収集できるサイトをホームページに掲載した。

行政資料や新規書籍を定期的に収集・追加し、その情報をSNS等を活用して発信している。

② 上半期の振り返り

エソール広島ホームページをはじめ、SNSについては、フェイスブックやラインに加え、若い世代へも情報が届くよう新たにInstagramのアカウントを開設するなど、WEBを活用した発信も広く展開し、新型コロナウイルスに関する情報の迅速な提供や、講座やイベントに関する情報発信に取り組んでいる。

また、「男女共同参画週間（6/23～29）」の周知とこれに合わせた企画展示、統計的な情報の提供等を行っている。

③ 下半期に向けての取組

内閣府や県の発信する、男女共同参画に関する各種計情報をホームページやSNS等に掲載し、県民への継続的な情報提供を実施していくなど、男女共同参画の促進に資する情報発信の内容を充実させていく。

今後はさらにエソール広島の拠点性を向上させるとともに、性別や年齢に関わりなく誰もが活躍できる環境づくりのため、社会情勢を踏まえた今日的なテーマについての情報発信を行い、団体・個人間の活発な活動や交流を促進する。

3 県としての検証の総括について

新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用自粛や、集合型で実施予定だった事業を延期したことなどにより、利用者数の大幅な伸びはないものの、若い世代を対象としたワークショップなどの新たな取組やWEBの活用により利用者の広がりが見られたほか、コロナの影響に関する調査やエソール広島に寄せられる相談内容等を踏まえた講座の実施と生理用品の配布等につながることができた。

こうした取組を強化し、更なる利用拡大を図りつつ男女共同参画の拠点性を高めるとともに、困難を抱える者を支えるための取組を充実させていく必要がある。

1 研修・交流事業

(1) 職場等における女性活躍支援のための主な事業

①財団主催事業

—

② 共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
集客につながるオンライン&SNS 活用セミナー 2021	企業（1），団体（1）	3回	225人

(2) 家庭における男女共同参画促進のための主な事業

①財団主催事業

—

②共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
子育て中の女性への支援	団体等（1）	8回	94人

(3) 様々な困難や生きづらさの解消と安心づくりのための支援に係る事業

①財団主催事業

公開講座 「コロナ 禍と女性 の自死」	目的	複雑多様化する相談に対応するために、男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	相談業務や対人援助に携わっている方，テーマに関心のある方
	参加者数	101人（うちZoomによる参加者52人） 〔内訳〕広島市83人，呉市1人，竹原市1人，三原市1人，福山市2人，庄原市1人，廿日市市5人，江田島市1人，安芸太田町1人，北広島町1人，不明5人
	内容	・コロナ禍で女性が直面している厳しい現実について，資料を元に背景を知り，支援について考える。
メンタル サポーター 養成講座（前年 延期分）	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：85.0% 受講者の声：「コロナ禍の中で女性の抱える問題が根底にあること，その解決は容易ではないと改めて感じました。」 「地域共生社会の実現が，弱い立場の女性を支えるということを改めて教えていただきました。」 「統計資料をもとに女性が自死に至る背景を知ることができ，日頃相談業務をしている者として，より関心高く，また身近でできることがあることを学ばせていただきました。」
	目的	複雑多様化する相談に対応するために，男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	学校，地域，職場などで相談を受ける立場の方等
	参加者数	28人 〔内訳〕広島市20人，尾道市2人，東広島市2人，海田町2人，安芸太田町2人

	内容	・家族の変容，子どもの諸課題，DVと児童虐待等をテーマにした講座と演習※7回連続講座のうち，昨年度からの延期分2回（4月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 81.3% 受講者の声：「男女共同参画という背景を踏まえての講義内容に改めて学びの機会をいただきました。」「DV，児童虐待，メディアで日々事件として取り上げられているが，その方たちの背景にあるものを感じ取ることができた。」「リモートで受講できたらいいなと思います。」
LGBT スタディ ーズ	目的	現状を知り，そこから見える問題点について改善点や解決方法を模索しながら，性的マイノリティの問題だけではなく，すべての人たちにとって身近な問題であると認識することを目的とする。
	対象	全般
	参加者数	40人
	内容	・同性婚とパートナーシップ宣誓制度，選択的夫婦別姓の現状から，「家族的価値観」の問題について考える公開講座
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：96.2% 受講者の声：「実際に同性同士のパートナーであるお二人の話が聞けて良かった。」「同性婚実現までのプロセス，選択的夫婦別姓訴訟の流れ等どの問題も当事者だけの問題ではなく，私たちみんなの問題であるということが分かった。」

② 共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
女性の権利	団体（2）	2回	38人
LGBTの理解促進	団体（1）	1回	34人

③ 企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
LGBTの理解促進	企業（1），行政（1）	3回	184人
デートDV	高校（1）	1回	80人

（4）その他

①財団主催事業

LGBT 関 連図書ビ ブリオバ トル	目的	少人数で「LGBT 関連図書」「セクシュアリティ」という限定した分野の本を語り合うことにより，LGBT についての知識を深めるとともに，同じ興味・関心や問題意識を持つ人たちと意見を交換し，交流する。また，情報スペースにある LGBT 関連の書籍の存在をより多くの人に知ってもらい，利用してもらうことで，エソール広島認知度を高める。
	対象	全般

	参加者数	12人 〔内訳〕広島市8人
	内容	バトラー4名が選んだLGBT関連の本のプレゼンを行う。
	受講生の評価	受講者の声：「若い世代の人がLGBTについてどう考えているか知ることができた。」「興味深い本を紹介していただいた。普段あまり読まないマンガがあり、とてもよかった。」
高校生向け出前授業	目的	多様な人々がそれぞれの個性と能力を生かして自立した生活を送り、お互いを理解し尊重することの大切さなどについて学んでもらうことを目的とする。
	対象	高校生
	参加者数	113人 〔内訳〕県立音戸高等学校66人、県立賀茂高等学校定時制47人
	内容	・男女共同参画の視点を通して働くことの意味やLGBTについての授業
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：80.0% 受講者の声：「自分らしく生きていくことが大切だと気付くことができました。」「自分の言葉で他の人を傷つけてしまうことがあるかもしれない。人と関わっていく中でどのように関わるのかを考えていきます。」「女性だけでなくお互いの働き方への理解が大切だと思った。」

② 共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
平和推進	団体（2）	2回	102人
社会	団体（1）	1回	38人

③ 企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
男女共同参画	大学（1）	1回	61人

2 情報事業

（1）ホームページ等

ホームページ	<p>アクセス件数：51,467件（前年4～9月：43,747件） アクセスの多いページ（HOMEを除く）</p> <p>①施設案内・予約（4,503件） ②相談したい方（3,311件） ③エソール広島の概要（2,612件） ④講座情報（1,613件） ⑤第2回新型コロナウイルス禍が及ぼす影響についてアンケート（1,445件） ⑥施設予約状況（1,117件） ⑦講座イベント情報（1,113件） ⑧第17期メンタルサポーター養成講座（629件） ⑨エソール大学（610件）</p>
--------	---

フェイスブック	投稿回数：42回(情報数42件)(前年4～9月：83回(情報数100件)) フォロワー数：676人 主な配信内容：①研修・イベント情報(財団主催)(23件) ②イベント情報(共催事業)(8件) ③コロナ対策(0件) ④国・県情報(4件) ⑤図書の紹介(1件) ⑥施設情報(6件)
インスタグラム ※令和3年 8月4日開設	投稿回数：6回(情報数6件) フォロワー数：56人 主な配信内容：①研修・イベント情報(財団主催)(5件) ②施設情報(2件) ③国・県情報(0件) ④コロナ対策(0件) ⑤図書紹介(0件)
ライン	投稿回数：37回(情報数53件) フォロワー数：56人 主な配信内容：①研修・イベント情報(財団主催)(25件) ②施設情報(6件) ③国・県情報(7件) ④コロナ対策(15件) ⑤図書紹介(0件)
メールマガジン	配信回数：22回(情報数82件)(前年4～9月：21回(情報数55件)) 登録者数：861人 主な配信内容：①研修・イベント情報(財団主催)(29件) ②イベント情報(共催事業)(31件) ③コロナ対策(3件) 国・県情報(8件) ⑤図書の紹介(2件) ⑥施設情報(9件)

(2) 文献情報等

区 分		保有数	貸出数	
			前年度	
一般図書	女性問題に関する図書、女性の活動を支援する図書	3,536 冊	165 冊	532 冊
行政資料	国・都道府県作成の男女共同参画に関する調査・統計・報告書等	407 冊	(館内閲覧)	(館内閲覧)
DVD	女性の生き方を考える国内外の映画・ドキュメンタリー等	29 本	0 本	3 本